

新潟ジュニアドクター育成塾

R3.11.14 No.8

体験学習「新潟大学脳研究所」

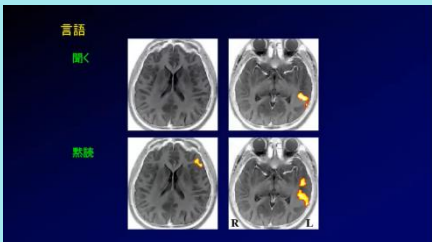
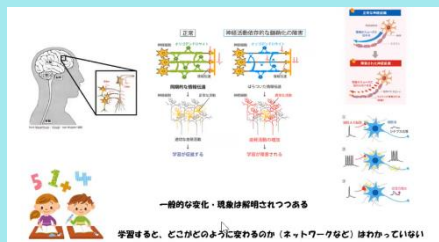
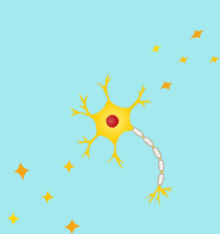
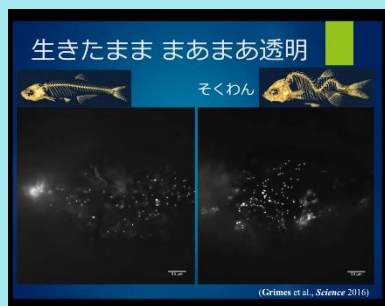
講師 松井秀彰教授・鈴木雄治准教授（新潟大学脳研究所）

松井先生からは「魚を使ったヒトの難病の研究」についてお話をいただきました。なぜ、ヒトの難病の研究なのに魚を研究材料にするのか、魚の中でもアフリカメダカが研究に適しているのはなぜか、魚を研究材料にすることでパーキンソン病などの難病の新しい病態が少しずつわかってきているのはなぜか、などについてわかりやすく説明いただきました。

鈴木先生からは「脳から見た学習」についてお話をいただきました。ヒトの脳の形、脳細胞の数、脳内の伝達方

法、脳内の仕組みと働き、学習とは、脳の不思議、脳の機能を見る方法などについて、わかりやすいイラストを交えて説明していただきました。

脳の最先端の研究についてのお話でしたので、内容としてはとても高度なものでした。しかし、小中学生の受講生にオンラインでも理解できるようにと、お二人とも入念に準備した上で、熱意を込めてお話してくださいました。



「臓器移植のように脳の移植はあるのか」「多様な特性をもつ子孫を残すシステムがあるヒトのような生物は他にいるか」「ドーパミン神経以外にも減っていくと病気になる神経はあるのか」「老化が早く進む病気はヒトにもあるのか」「研究に適しているアフリカメダカのデメリットは」「脳の部分によって酸素を使う量に違いがあるか」など、鋭い質問がたくさん出ました。

知れば知るほどわからないことが増えてくるような「脳」。まるで無限の広がりをもつ宇宙が、私たちの頭の中に存在するようにも感じます。

※この取組は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による「ジュニアドクター育成塾」事業（2019年度～2023年度）に採択されています。